俳諧廻文帖

863
109

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109

ガラス使用

863-109

廻文俳諧序

宮内省圖書寮

俳諧者自連歌而生。連歌者自和歌而一變。和歌者與詩同意也。故曰詩言志。歌永言。至言其志。則詩歌連俳無異也。詩有國風。歌有萬葉。而雖上古之志。亦以得見之矣。百有餘年前。有芭蕉桃青者。深志於俳諧。一變古體。風靡一時。以

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

大鳴於當世也。世一人謂之正風矣。
今復西湖。有素更者。專本于正風。
萎志於其道。竟至其極矣。近頃戲
飜案一體也。其體微和歌之廻文。
而為長短之俳句。終至五百有餘
言也。以為小一冊而自齎。以為孤客
獨笑之資也。予今茲北遊至丹後
宮津。一日有客懷彼一小冊而来

序一

以示予。且乞序予以閲焉。其滑稽
實可解頤也。如佛印之於東坡之
詩也。黄備子之於野馬臺之詩也。
則齟齬其顛倒。錯互其句讀。以使
讀者難讀焉。如廻文則不然。自首
至尾。亦自尾至首。字字無違意志
能通。使讀者易讀焉。其狀如環之
周旋。其巧如棘刺刻猴也。公輸子

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

之巧。江帥之辨。又以可比而已夫詩之國風。歌々萬葉。聖人賢士之所撰而所以使天下後世。察上尚之風。觀古代々俗也。桃青之正風。志溢於言外。情透於骨也。素更之滑稽。亦達物之情。的人々志。以侍坐高貴者。誦之。而以足備於俳優而已

文化己巳歳秋七月書于
丹后宮津客舍

陸奥華峯　島芳國子則識

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

廻文俳諧之歌仙

素更吟

折る枝(ヲル エダ)
嗅ひくらん(ウヒス)
妙なはを(タエ)
梅咲(ウメ サク)
なうわ和(ワカ)
奇麗ちむ(ナクサ)
ものの(モノ ノ)
雛小鍋乃(ヒナ ヲ スミ ノ)
お年蕎を(ミ ス)
麓て(ナヒカ)
長き(ナカ)
續きの(ツツ イキ)
行つきうめ
月ちゝ所まる(ツキ モト ノ ヨモ)
四方の友乃まち(モ ト キ)
寛さ(ヒロ サ)
山田(ヤマ タ)
色ぱく(イロ)

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

鹿を聞きてそ廻しあそ
さいたいけるを
告しを待ふ同蘭つ
みれすきたらつ門をそ
我庵を慕ひわしし大井川
向嶺栗を隅見
舞退つ池菓引た月の滝
恒例年を遠くふ沢舞

て疵ちゝ相撲場の跡を拭ふ
清水寺ゝゝ清水
氣を揉む矢橋の波もなき
滿つ潮も俄然
ゝ弼ゝ明ゝ落ゝ
君乃敬ゝ白鷺の神酒
水つ弼ゝゝゝ寡ゝ
通りの子乃袖
さわ窓葛粉ゝ
こゝゝ支ゝ彼ゝ
波場乃滿を
そこの池い貸似我蛙乃こを
香やひゝき備ゝ花ゝ寺蛙ゝ
友の栄ゝ邪ゝゝ
其二
ゝゝゝ引錦月日弟ゝ

東風吹まくれば柳まつ枝

地蓮遠見透雲

列白萩乃新芽

黄中も女皆寄世なるとも河内

持い吹子乃張る縄なも

あるりさるそれまそ結て

宿るてもこそ思てる

仲ちて蒲日乃枯際乃絶音

別ちて和吉乃峰ちれうわ

絡りはて折節仮を繋をら

坂路い踏を相撲場ちうち

ちりまりつもふ角ツキ

帆影秋を仰き細顔

支そそ得ーをい撒えいて何ちて

居場もやて蟬屋もを

天もを邪花乃を

今日近水宮を遥きはるの夏
宇佐は雀走入り
鳥獣人や飛人やうう
羽織の物ゝ三ねとうら
柳日原こゝ
流れ走る彼通れし
折り後は行を
相國れい情こ
はいあるる

遠き清森に憂し
遠猪も御ゝ森の青
宮を所に稀
住めり時の真利級と月
葉久紀森古にくき
此所ゝ蒐爾て
宿を守ものゝ
見は源通り折

積逃(ツミノケ)きも雪解(ユキトケ)の水(ミツ)

わうらふは春(キ)の湖(ミテ)地(ハチ)うば

ゆ(サカ)く師(ノ)もうふ中(ナカ)もも岡(トカ)さ

其三

注(ヌシ)ふわく楽(ラク)さり桜(サクラ)瞬(ハル)なし

門(カトノ)師(ノ)く芸(コタ)う順(ウタ)うを岡(ノトカ)

ふ(テキ)ふ行(ナニ)ふ行(ツキ)ふ月(ハル)ふ

白(シラ)ふ(スナ)ふ雪(ヨリ)ふ

雑音(ヨキヨト)の鶏(ノキ)行(ツツ)月(ツキ)の雑(ナカ)釜(ト)沖(ナキ)より

も旅(ナカタ)陸(クカチ)路(ヒタ)ちうく引(ヒタ)板(ハタ)うふ

猶(ハタ)守(モリ)すへき秋(アキ)行(ヘキ)をうるさい

蝉(セミ)のうきき(キヨ)ほ(ヒ)そ(ヒ)の蓮(ハス)

陰(ハタ)辛(モノ)と流(シ)沢(メス)石(ス)らし海(ハ)も偶(タ)

鶏(コヘス)鷺(ハ)破(クラ)ふく鶏(サ)ふ馬(コ)ふ

元(モトカレ)彼(ヨト)と音(ヨト)ふ(ツレ)ふ(ツレ)と

木(キ)行(スス)き浮(キ)き岩(キレ)清(ススキ)月(ツキ)

四方和歌を猶名ものつ菊もよ

作面白し塩竈の浦風

隆あけくれの変化行いぬ

葉搗しと年待半

海苔搗とて山きぬ

日傘のように蔦の蔓

尼竈に伊勢神宮の郷用うと

葉乃郷澤河内

戸越とて寒剛とて仕事

額乃しふいけふ濃うな

商乃香を敵解さう弟系乃宮

信貴の地をひとつ縦令遠

作やうらうんやまん

うう叶おう鐵

皆耳乃軒中連

[illegible]時[illegible]月[illegible]
踏[illegible]れ[illegible]
身[illegible]を託し[illegible]
二階[illegible]
遥遥[illegible]
[illegible]帰[illegible]
筆[illegible]学[illegible]
[illegible]

其四

中[illegible]帰[illegible]
板戸[illegible]
出入[illegible]
枝[illegible]
[illegible]
平[illegible]時[illegible]

んしつ堀もと戸也懐しく
戻るへよ好積しよ清らもと
糸留を待う陳ちうわ
さわ瀬をもらさ育も女業
着仮絡もそわ敏そらき
美退つ氣さ侍侍乃泣
絡外寄町乱任体よ
出憲い係る囲方を竈馬ま

然細えそ水面見絶し
恩ふ解を待人箱紐を
ちを竈を備よ自へそるは
紙る飛山乃端の寄ちき
弟祢う弥を尾と乃結そ
年い氣り順かち服しち
祢らしこちと男し沢女
笑し数沒さちち遠沒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なぶさを補佐身の揚澄きりて
未きいき陸路迄くらのもと
月乃新さを酒う離つ塩も
鹿さ吹ゝ風ゝ吹うも
世ゝ別る重行ゝ遠たゝみ
面仰さわく仏咲み玉揚
心ゝよ筋道を花さ白
夏はのつゝ一乃はゝ仏

流れもう猪の連
迄ゝ迄きも塩を流う
三ケ月乃玉川うゝ新つ上
春清仕埋新儀
接待ゝ功徳ゝ追達勢
沖乃ゝ水ゝ本郭憑
地乃名いわれ技ゝ花乃
うへゝ迄ゝ

カスカ モマ ナガス
ミカツキ タマカハ ノキ カミ
フシン シヲ シン シフ
セツタイ クトク セイ
シモ タノモ
ヤマ ハナ ヲマ
カハル ハル ハカ

[illegible]せよ[illegible]越[illegible]の[illegible]

[illegible]

敵[illegible]を[illegible]

[illegible]

道と[illegible]

老[illegible]杜[illegible]

不[illegible]間遠中に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浦[illegible]時[illegible]秋[illegible]

[illegible]松[illegible]

[illegible]子[illegible]

晴[illegible]

[illegible]

[illegible]

元日は花とまがふ人しも
ケフはまことわれうわ別を雪も
フケ

其六

須ことの外なる物を
スヤナキ　テ　ヲリ
日をあの郭雪ふる
ヒ　フケ　トケ　ナカ
賑つゝ去れば
トウ　チ　スチ
楽はあるせ話ある
ナシ　トリ　セ　ハ
利ふ釋つ咲まる砂
リ　トキ　ハナ　ヤスナ
月とゝり
ツキ

鶯蒔餅
ヒワ　マキモチ
出し釋百俵
テ　ユキ　ヤ　ワヒ
若紫ゝ宮ハと年ゝ納度しゝ
モシ　トフ　ミヤ　ハヤ　テフト
咲方ハと風ハ
サル　カタ　ウル　トル
帝かゝ留多
ウタ　カ　ルタ
嬉しう祭とりはゝ食
スウ　ブミ　ツツ　カミ　フスヤ
白雪ゝ積ゝ
シラ　ユキ　ツミ　ミツ
紙丸ハ れうわしとる入角川
ワカ　ヤル　イル　カワ
きつるう陸を笑の新
ツル　ウ　ヲチ　ヲ　カ　ツキ
下り度と一流と對鯉を
サカ　ト　イツ　トヲ　ツイ　ヲト　カサ

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

[illegible]

宿りうは[illegible]老仕い[illegible]

延日笑顔と十日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言葉[illegible]

九十九髮[illegible]身の藻屑

真向うとうき[illegible]

第[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧過はし
須き
海原
渡せる
浮かるる
風に
吹かれて
遠山かすと
よしまさいそこ
面白
移流れよ
着なし
舞初
月を隠しなき
陽へ
咲かして
花果しして
日を
習へ
青波
乗は
乗れ
乃
後
波

其七

中
神
の
深江
の
芭蕉
葉
岩
に
寄
る
寛
て
満
月
廻り
俳諧
の
盛り
潮
の
満
見
通し
ちらは
書
る
の
繽り
る
あこ
日
中
時
遠
山
蔵
を
彼
蕉
子
行
人
川
つ
ふ
流
舟
う
橋
木
て
出
過
木
り

居まきの遍逃門掃しまん
井　トカケ　ニケ　カト　ハキ

篠俗の綱結そ
シナ　ソン　ヨト　ツク

せうるもいつしりの風
ル　カセ

俤なきの月淋しき
フロ　シキ　ツキ　トキ　シロ

雲こそ巻の湍本搦うわ
ワカ　タハコ　スミ　コ　ハル

間先ぬきの秋猫
メ　サキ　キウ　アキ　サメ

菓折しの垣敵を二ふよ
ヨ　シタ　ヨリ　コ　リ　フタ　シチ

搦そあるはの絞うち
チカヒ　ハル　アソ

弓ゝ鳴の常う兼の蒔とる西
ユミ　ナ　ツネ　カタ　ハナ

五和束搦地乃後六きう
ウ　コキ　ツム　チ　ノチ　ムツ

夏衣江戸の門之渚小堀
ナツ　コロモ　エト　カト　モロ　コ　ツナ

駒乃郷なの流乃鳥子
コマ　コヒ　ミナレコ　コ

猶同士と猶り考ゝ猪う
カリ　トシ　カタ　ヨリ　トシ　トリ

雪乃光りそ寺甲斐乃消
ユキ　ヒカ　モリカ　ヒ　キユ

雪逃奥なう水を泥戸な
ヨ　トケ　ソク　シタト

共乃井流東裏相乃そ
トモ　イ　フラウ　ウラ　アイ

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

白滝乃古和滝田山而已有し
風音秘しそ地人を待
疑をいとらあらわん俗うたり
清とたとえ男鹿ひらそ
氣をとりの延る旅乃夜遠き
暮秋のいとき様そいの潮
仕流を乗渡乃澤乃葉則遊し
永名ごの衰を清物をふわ

十六

駕乃戸とたをとしたるつ
二月弥りしく嬉乃春に
晴ゝ清くれいるれ春乃色しく
清舞夢い清波
其八
見よ梦つ折うを角清
友乃古酒と嬉春本の
出あ業を柿色い清し春

十七

ふるゝ門の形い枯らわ

なゝ出し蹟き葉つ

藻しき

靜かれとも底と通沈

ひらうい葉ある糸いをうめ

弓原いの名を備てをゆ

とゝ蔵う偽りいはい

なを篤本をより瓜青を沈

底すゝ忘れの紐を解とも

村坂渕際淵婦をむ

ゝ蹟を二人の陸を月

新鶏をに荷元抽し

潤度やをひをゝ数度を遠を

仏日とふれい蹟を寿け

見遥しぬ蹟ゝ蹟ゝ

鶯も本ふを そふ

卵あゝ泅ゝ

孤なる人や庭の
ゆうべ千度も常
しらぬ憂と遍く
こゝろい来しは
時を隔て後
庭に見しより
痩もやせしを
消る彼の自の羅
通る

通路次あるしか
逸八重よ退けも自
やすれい義の
才る鬢きに
見し程なる
徐ぬて全く
宣なる
叶ひるい

[illegible]

其九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂越のとりあつかひ
地守寺書もとりて
作りの式を作り
陸遠道の後
隣ちなは好まし遠き
住まあ端歌い嘶春永
其十
神の答ひと奇唄ひまるのこう

[illegible]
嘶はこそ旅と庭はて
月おそよ今日更ちまし
汐時後萩晴しを潜通
宮中原よ寺いかしむ
情れ其集の蓑を濡まを
こ乃ちこそ坂皆見
水図入を勾引い磐

[illegible]

育ちて元祝人と居ぬ井戸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

泥と牽て遠い功し
氣味ゝゝ道に得わた
能踊ゝも遠きよ
四 月の名つ並賀し
鳴名略と 特ゝ鄙に
洗しの名 鏈 窓ゝ
日 繰ゝれい 晴 楽 咲
作ゝ地ゝつゝ 欲 用ゝ

ゝゝ 薙 枝 ゝし
元ゝ名い 隠ゝ 咲ゝ 花の 枝
隠 田 ゝ ゝ 鶯
其十一
猫 ゝい ゝ 猫 ゝて
雪 ゝ ゝて ゝに ゝ 消
ゝし 小 窓 水 流 次 名ゝて
蘆 ゝ 蛙 ゝ ゝ ゝ

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

坂退の遠光る月の暈
たつきあやしき澤や塚端
牧方の續き往ける所田うち干
八十次めてうち寄せ沢あり
勾欄を別係てわたしし塔と
かの紀を深もれる象の徒と
すくすくと徒なる男癖
咽喉しきる雞鳴

遠ちて帰るへう夜月細
新造あれい早朝月の
急きけるやうあれ蹊斜續きへ
列町を活き作忌淵を連
花淵い薄うり新合あい
見遥うて遊う沢うあ
枝寄つ伸て遊ひの次日浮り
坂後旅次所よ呼鳴

作ったる長しらし枇杷の花
木葉のしぶきを温そしき
向ふ国出しし婦しも尾花葺む
砂山崩き篠なるやなそ
老をそよ孫松ふるまつ
秋君ともよ四方寄きうは
海苔ちと海やし海を鶴鳴
かりの待ちを八幡まりを

二十五

壊れ降も水の海月物乃作る
ひく迫守と糯けく舟
海苔ともの塩り撰りうと元と作
日ひ流れ(ヒコロヨロコヒ)
滝ちまひ旅鈴鶯を
数師なるい海深作
花下を出遥ぬ作て後しふい
桜鍬をみ引く浦草

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

其十二

猟場乃どさつきり畑迄つ地も
木深狭しゝ海山世話しき
貴子ちはゝ聞弾て笛を郷音らして
嵯ん端のやゝ地乃半月
哀ら帆乃江崎秋さん登るも
通ろう船よ奇の子を
憂遠ろ船ゝ知ら嶋ゝ嶋ゝ

流のよゝ地乃俳の集
ふまゝゝ吸先迄ゝ立ゝ
鄙乃術も森の井水
船ちゝも蕾ゝ歌ゝ
疲れゝゝいゝ原場郷塔
ゝゝ角の作ゝ作法
墨仙俳つも持説俗し
俳句を流園乃俱郷

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

やまうるふ海と塩うるやや
急もしく恋郷らしたれ抜きてい
ちと住浮しと教んちらは
旅ろやゑ海藻へ書うて別業
通りて海向い潮も鍋やと
世話あんう沽券あう嘆捨せ
弁天ら僧侶為住持よ
積き日り山越弱や二辺乱

それいあ乃俳物乃後わき
稿ちちも災業わもとまて
屏重門え孫もちいへ
二位別奥稿いまちい紅て
新宿見ち女動物し
形う有沼も向う木洲川よ
松末あ中ち嘆や秋宵そ
海一図乃世界の威風のうち

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

帝の宵若干と徳ハてうけ
仰仮屋いろ〳〵蓮ちる所明神
蓮指しき宿海や連えん
陸をいそうそいうてうりなれ
一ちゝ中越門乃ちゝ岡すこやう
甚百韻
杜若漬咲ゝ烟の涙う
舞〳〵ゝ嵯ゝ剣深陽〳〵
天と人嘯ついたれい書飛て
鳴ちゝれそ遠も山桜
宿賜り皆像ゝ紙わしき
中通路こしころうふ
角折とわりきとりを海蓮つ
嬰粟蒔小孫を圃をまけ
孫を弓絵や湯あいそ
わるゝまゝと海をしれうと

実のれふ顔のひ流れ乃身
老乃ぢさめつ濡され間と
遠のしをしくもそそ出し磐の書
楽やさ興ひしさうたやくら
行に雑間う記書さ所二濡
ぬ乃るのきの波の波や
そこ修波撰浦海度
ぱうりたうり波りさい

行入間とやいり川やより体と
雲級つ撰くすう
花くくくち作乃これ埋無しなん
八十塩波色乃藻そや
世う鳴う行れ浦つい仮名ま
砕つくく撞ぢあく
さし凝ま袖竹恒もあさ
連浪を奥のしをぢ

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

慎つ折乃術を羅ーー法ら
人乃柄を紀法ら紀阿
面白し砂場乃ん乃を場下を
門彼を紀浸をふとう
法を乃何ふかふを流す端
寄を世話しく辛いを寄よ
いつをを紀ーふいををついー
紀ら中戸乃ものを皮

をを紀ふ為をを
楽さへやを八を梅
ふいふり紀の道の紀欲修や
紀何りさん紀さりよ旅と
ふ居を修を寄をいふを
まちふれを支ふーさを
利をふわ説時法とわふを
芭元設今日孫をる

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

たゝく　葉

斯くまで　屋敷

月　なし　門

二人　相対

鹿　角の

系代を　地獄

出し　稲佐山　磨耶

宿　果て

消ゆ　雪

吹く　代　毒の

深き　窓　毒

出て　道　年　船

業　澤

地獄　畑　味

梅　媚　秀　白

雛の菓子何ぞら私とたべい
よさそ圃部の所垣を過る駒
深まれ野辺の垣の一廻り
夕涼しさ小竹植
時つまで蔓水見遠
中堰つ下まし附潮ゐ
大京ゑ支ゑ枝れを似ゑ都を
漬き竈鏡の内

路次端に折戸掛りて深き淵
[illegible]を呼ぶ鶯よ
備りと見るなる竜場花そ
[illegible]の男業氣濃るそ
奇なる所ならさりよ
闇らやりしに寺庭やう
押解つ清し町も連ふしに
おのゝ登はは舟帆の志舟

世に疎い鰻ゐそ
不図彼を[illegible]
折り過ぎ清き嗅ぎ
舞ひ日又の給ひ
元こゝろれの衣しなこも
新面の道を義身の例つ
啄木鳥よ淋しの下る能鶏き
端華風を折り過ぎ

書つけ嶽眉山
行かうう酒
都合して来そうえん年満い
訪ま問まる遠い友人
静さを乗任せ長う通欲
日暮の影乃延いるこれ
先踏ん清ん流ん町ま
やうをとをしてやを

絢花を踏乃寺の庵そふいりの
白砂中門乃岩安らし

旅乃涙を人
弁慶に仰ん待ちたる又林
笑ふは西の方ふ仰ん人乃
やうねをしまを知ちを立
いつる仰しい和ん人うね
ねるうちむうむ

だちとの間よりあつ天の待を待よ
風ちらす入江の秋の高あり今宵の
月に酒の子千鳥ふ舟を余あつ
漕ちりの次の月樽て筆に飛ちて
ひとりとちて弱まるよ謝の波と
なるもしくるおもひてひろ泊しも
うちちりの波の波ふ新を浸て
ゑ壺傳ふ酒ねもの次

公乃ちて仏三ち次人ちれ
ちに六義ちり人のはちる
ちを水ちしに四方乃海りに
ちの雨ちに作ちて羊ちれ
ちち帰ちちれ海ち寄ちれ
水ちの月ちに月ちに水の月ちり
ちちに書ちちあ筆
ちくちちちちの意のちに

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬくらつ〻ひろはと笑ふを俳を移す
手を動そうに見えんふの言つゝる
もあなつまと言ひ合ふを少そ笑
ゝまと拾ひ出す其の更雑へ康
さう月毎を一生をつくり山吉百顔
を作て物の笑ふ言ふ和ゝ歌
に迫ゝたゝと長き形の寄きはこを
の孫ハ兄弟と言ふ晋子迴文の

ほくあわい又門雄の一句ふりかゝる
と物もゝ人へハ巻ゝ紙を詠を巻め
冥を作る句を拾遺ゝ一具
なゝんハ源書林行業のもに
ゝう巻ゝ撰ゝ了卿ゝ心ゝ
ゝ新ゝ新ゝ手ゝハ丹後杉江の
磯ゝ巻ゝ作ゝ

貞諒

863
109

14202

蕉門書林　皇都寺町通二條　橘屋治兵衛梓

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』　請求記号 863-109
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『廻文俳諧之歌仙』 請求記号 863-109

ガラス使用